

緑の相談所だより

—第41号—

[夏から初秋号 1996. 8. 1発行 編集：旭川市緑の相談所]

講習会のお知らせ

バラ・夏の管理

防除・剪定の仕方

日時 9月8日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野 元雄

豆鉢で楽しもう(第3回目)

鉢植え・その後の管理

日時 9月22日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

※持ち物 花バサミ

いずれも定員は50名 無料

お申し込み・お問い合わせ ☎65-5553

たねで作ったかざりもの

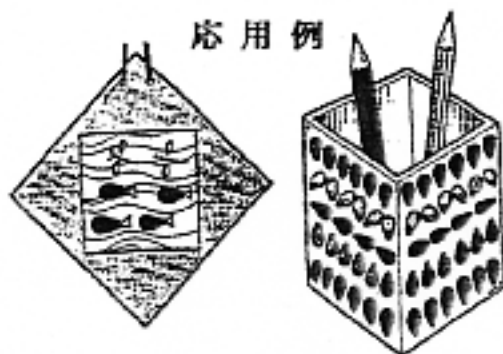


スイカ、カボチャなどのたねをボンドではりつけ、花火の形にします。フェルトペンでたねに色をぬってきれいにします。



紙ざらに絵の具をぬってかわかします。

応用例



工
作

種は播けども・・・その2・・・

‘その1’では‘播いた種が生えぬ?’わけについて、種子そのものに内在する発芽し難い条件について述べました。これらの条件を取り除き発芽しやすいようにしてやることを‘予措’といいます。予措の終わった種子は、条件のよい播種床に播かれ、これ又良い条件の下で管理され、幾日か、あるものはいく年も経て文字どおり芽出たく芽がでました。さて、芽は出たのですが?

その2は 播いた種は生えたけれども?

「これは6年間種から育てたミカンなのだが、一向に花も咲かず、実もならない。いったい何時になったらミカンになるんだろうね。」

背丈を超えるくらいに成長したミカンの鉢物を眺めながらの嘆息風景は良く見聞きするところです。ミカンに期待を裏切られている風景です。

「戴いた葡萄がとても美味しかったので、その種を播いてみたいと思いますがどのようにしたらよいでしょう?」といった類の問い合わせも多くあります。美味しかった果物の種を播いて、わが家の庭にもこの美味なる果実を成らせてやろうとの試みを経験された方も大勢いることでしょう。幸い芽が出て果実が稔って、親に劣らない美味しい果実を頬張った人は幾人いることでしょう。それは宝くじの一等に当たるのと同じくらいの確率、或いはそれ以下の確率でしかありません。

そこで、まあ止した方がよいですよ(植物の種類にもよりますが)・・・と水をさして、皆さんの不興を買うことになります。止した方がよい理由は二つあります。

その一は、実生からの生育には時間がかかる、特に木本類では一人前になるには十年以上もかかることが多い。つまり種子からの根は極々細く少ないので、養水分の吸収量が少なく、従って葉の面積、さらに同化物の生産量も少ないための大人になるのに時間がかかるのです。草本類では木本類より生育が早いため1~2年で大人になる場合が多いのですが、中には150年もかかってやっと大人になる草もあるくらいです。サボテンの仲間にも数十年をかけてようやく大人になる種類が多くあります。

その二は、植物の実生からの個体は親と同じ形質を備えていることは極々希である。自然界においても同一種の植物の花や葉の色や形などに複雑な変化が見られます。特に園芸化された植物の場合は、形質の複雑な混ざり合いから個体が成り立っているため、両親の複雑な形質を受け継いだ種子は複雑×複雑=複雑複雑複雑雑となり播かれて芽を出した植物は親とは違った形質を備えた個体になっているのです。その複雑さは花の色とか背丈といった目に見えるところばかりではなく、環境に対する適応性も含めて乱数化しています。

たまたま親を超えた形質を発現した場合鷹が鷹を産んだことになり、親に似ない劣った形質を発現した場合は鬼子の悪名を着せられるのです。そして園芸植物の場合鬼子が圧倒的に多く産まれてくるのです。実生をすることで鬼子の中から鷹を探す楽しみもありますが、これはマニアの域に達した方の道楽でしょう。

以上二つの理由で播いた種は生えたけれども、期待を裏切られてしまうことが多いのです。そのため果樹や花木では接ぎ木苗、野菜や1、2年草ではF1の種子が売られているのです。挿し木・株分け・分球等で殖やした栄養繁殖系統の個体はこの災難?から免れることができます。

夏らしくない夏が続いています。低温、多雨と来年の春に花を咲かせる花木には致命的な悪環境です。害虫も病気も随分と多く、頭の痛い季節です。そして後旬日のうちにあきあかねが姿を現し、秋の気配が忍び寄ってきます。向こう2カ月の園芸作業留意点は、

* **花壇やプランターの花の延命策**・・・茎が長くなったペゴニアやペチュニア、花がまばらになったサルビアなどは茎を切りつめてやると秋の涼しさに助けられてもう一度見事な花を咲かせてくれます。追肥はお盆を過ぎてからにします。

* **秋植え球根類の定植**・・・掘り上げて陰干しにしてあったチューリップやヒアシンス、園芸店などで買ってきたスイセンやアイリスなどの秋植え球根は8月下旬から9月中旬の間が定植の適期です。植え付けられた球根は雪のくるまでに新しく根を伸ばし、来年の春の準備を始めます。地温が低くならいうちに忘れず植え付けましょう。

* **蔓物の芯止め**・・・ブドウやフジ、コクワ、ツルウメモドキなど蔓性の植物では夏になっても伸びが止まらないものがあります。肥料の効きすぎと土中水分が多すぎるとこの傾向は加速されます。かといってハサミを入れると蔓は2段伸びをしてしまいます。真夏を過ぎてもまだ伸びが止まらないものは、涼しくなってくる8月下旬に蔓の先端を爪で摘んでやります。くれぐれもハサミを使って、蔓や葉を切ったりしないように。

* **除袋**・・・リンゴやナシの袋外しは9月の初旬におこないます。いつまでも袋をつけたままにして置くと、色の悪い、甘味の少ない果物ができてしまいます。1週間に1回くらい“玉廻し”といって果実の向きを変えてやると色付きがよくなります。無理をして果実をもいでしまわないよう注意します。

* **早霜の注意**・・・9月の中旬を過ぎると何時霜がきても不思議ではありません。屋外に出してある観葉植物や洋蘭、鉢花類で霜の害を受けるものは注意が必要です。天気予報や空模様を注意して、霜の心配のある夜は屋内に取り込み、日中は屋外に出すようこまめに管理しましょう。

* **灌水時間に注意**・・・夜の気温が下がってきます。鉢物への水やりは午前中の暖かい時間に終わらせるよう心掛けます。夕方から夜間の水やりはいけません。また、鉢が乾き難くなってきます。乾かない内は水やりをしないことです。長雨が続くような時は、鉢に枕を買って傾けて水が切れるようになります。

* **春植え球根類の掘り上げ**・・・グラジオラスやカンナなどの春植え球根類は、強い霜に1~2回あててから掘り上げて、球根を乾かして冬越しの準備をします。

* **短日性の鉢物に注意**・・・昼の時間が次第に短くなってきます。ポインセチア、ロケア、カラコエなど短日性の花達はこれから花を咲かせる準備を始めます。部屋の中での夜間照明は花を咲かせる準備の妨げになります。夕日が沈んだら自然に暗くなる環境を保ってやりましょう。

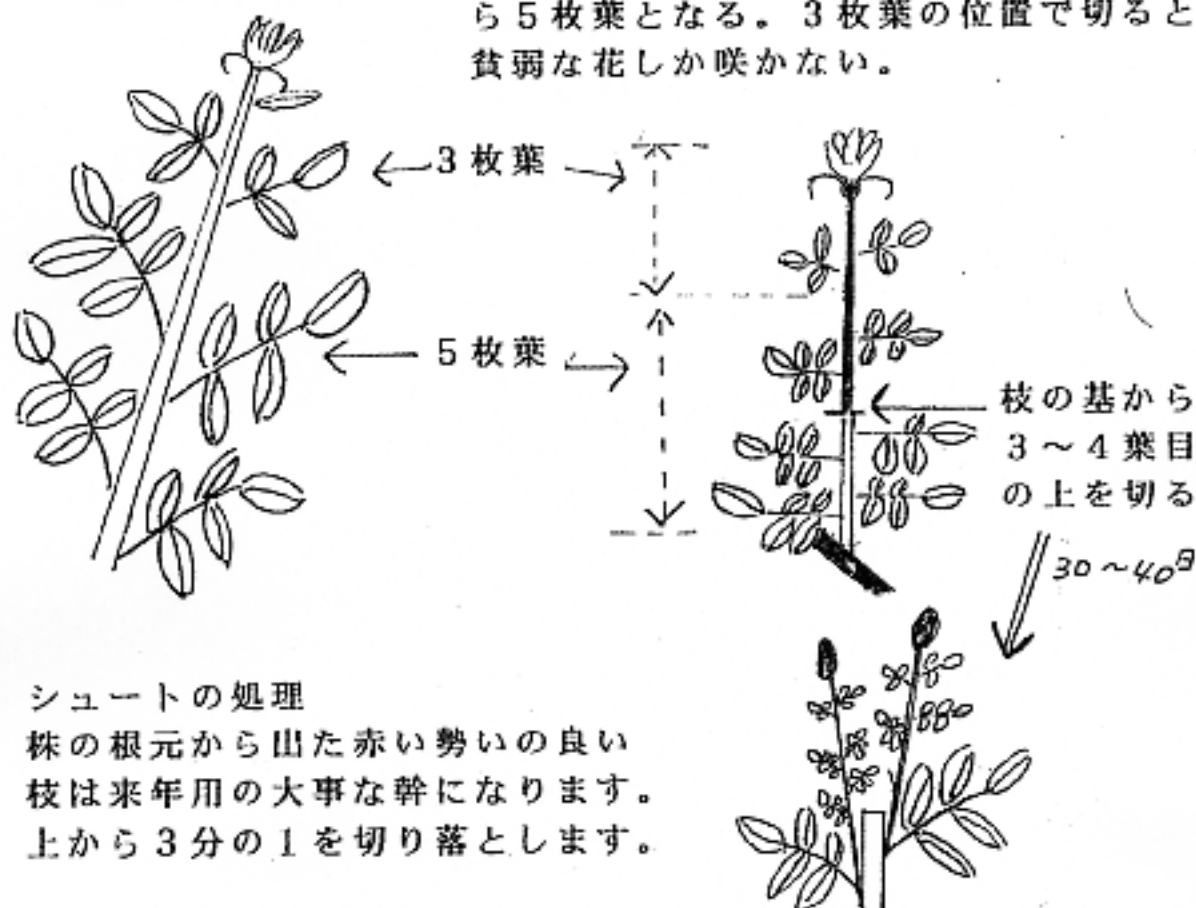
バラの手入れ

8月から9月にかけては、秋のバラを楽しむための大切な作業の季節です。7月中から咲き続けている花の観賞は1度ここで打切り、バラの最も見事に咲く9月に向けての準備をします。

○ 剪定

8月上旬剪定 ————— 9月中下旬開花

- ・ 5枚葉の所で切る ~ 花首の下2~3段は3枚葉で、その下から5枚葉となる。3枚葉の位置で切ると貧弱な花しか咲かない。



○ シュートの処理

株の根元から出た赤い勢いの良い枝は来年用の大事な幹になります。上から3分の1を切り落とします。

○ 施肥

剪定を終えた頃 化成肥料1株に半握り程施し、十分灌水します

○ 病虫害

暑い季節から涼しい気候に向かいます。この時期、季節に応じて色々な病虫害が発生します、大切な葉を落とさないよう万全を期します。

- ・ 害虫 ~ ダニ・アブラムシ・ヨトウムシ
(ケルセン、モレスタン、オルトラン、テルスター等)
- ・ 病気 ~ ウドンコ病・ハイイロカビ病・クロホシ病
(ミラネシン、ダコニール、トップジン等)